

本年、日本とカンボジア王国との外交関係樹立六十五周年を迎えることをうれしく思います。

日本とカンボジアは、四百年以上の交流の歴史があります。日本の江戸時代にも当時の王都ウドンに日本人町が形成され、世界的に有名なアンコールワットを日本人が参拝した記録が残っています。一九九三年の王国政府樹立後は、強い信頼と友好の絆で結ばれ、政治、安全保障、経済、文化、人的交流等様々な分野で関係を深めています。特に昨年、フン・セン首御相訪日の際には、二〇二五年の大阪万博開催及び日本が推進する「自由で開かれたインド太平洋戦略」への力強い支持を表明いただきました。

このように両国の関係がますます深化する中、本年一月に在シエムリアップ領事事務所が開所したことは、誠に喜ばしいことです。日本政府としては、世界的な文化・観光都市に設けられたこの新たな拠点を活用しつつ、今後ますます両国の交流に尽力していきます。大使館及び領事事務所の活動に対し、閣下を始めとするカンボジア政府・国民の御支援を頂ければ幸いです。

これまでカンボジアの民主主義に基づく国造りを一貫して支援してきた友人として、日本は、カンボジアが本年の選挙を国民の意思が反映される形で実施し、全ての国民

の団結の下、二〇三〇年までの高中所得国入りの実現に向けて、更に力強く国の開発を進めていく体制が整うよう期待しております。日本は、新たな国別開発協力方針の下、産業振興、生活の質の向上、ガバナンスの強化を通じた持続可能な社会の実現を支援することで、カンボジアの取組を力強く後押ししていく考えです。

この外交関係樹立六十五周年を契機に、今後両国間関係が更に深化し、発展することを心から祈念いたします。

平成三十年二月

日本国外務大臣

河野太郎

カンボジア王国上級大臣兼外務国際協力大臣

ブラック・ソコン 閣下